

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0370101362		
法人名	有限会社 絆		
事業所名	グループホーム 絆		
所在地	盛岡市仙北3丁目14番41号		
自己評価作成日	平成24年11月21日	評価結果市町村受理日	平成25年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kihon:true&amp;JigyosyoCd=0370101362-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022">http://www.kaizokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kihon:true&amp;JigyosyoCd=0370101362-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	(公財)いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成24年12月12日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

民家改良型施設の持つ、家庭的な環境を最大限ケアに生かして運営してまいりました。また、一日は挨拶から始まる大切なことと、とらえ、職員が「ただいま」と言って入ると、「おかえり」と入居者が迎える習慣も定着しています。そして入居者の安心が、穏やかな暮らしになり、職員の笑顔を大切に、気配りのある援助が、入居者の人生を豊かにするという、共通の認識のもと運営しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

旧国道4号線(仙北町通り)と、国道4号線に挟まれた閑静な住宅街の中に立地する民家を改修したグループホームで、近くには、せせらぎに沿い植樹された散歩道のある、せせらぎ通りがあり、地域住民のふれあいの場になっている。地域とのつきあひもよくなされており、その具体的な動きは、グループホーム開設以来、毎月1回発行の絆ニュースペーパーによって知ることが出来る。また、地域の中に存在することを念頭に運営推進会議の名称も地域運営推進会議と呼び、グループホーム絆は、地域の中における一家庭であること、そして家庭的であることを大切にサービスの徹底に努めており、利用者の表情にも落ちつきがあり、職員も明るく仕事が楽しいと話している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のケア会議の最初に持ち回り司会者によって読み上げられ確認しています。	人格尊重・能力に応じ、地域で自分らしく、自立生活ができる支援をすることを理念とし、開設当初から活動・実践してきている。現在、毎月のケア会議で確認しつつ共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の清掃活動、運動会、回覧板、赤い羽根共同募金など自治会活動にも参加して、事業所のアピールをしています。今年は舟っこ流しに、担ぎ手として二名の男性職員が参加し、懇親会にも出席しています。	仙北三丁目町内に会加入し、一般の町内会員と同様の活動をしている。具体的には町内清掃活動等々である。また、絆が依頼して駐車場で演じられた「小鷹伝統さんさ」には、多数の地域の方々も訪れた。防災関係では「絆」が主催した救命講習には地域住民の方にも参加いただいている。町内の防災体制にも組み込まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員を通して、施設の機能を紹介していただいています。今年は夏祭りを開催し、さんさ踊り団体を呼んで地域の方々にも見ていただき、またかき氷、たこ焼きなども振る舞いました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催し、民生委員、地域包括支援センター、主治医、入居者ご家族様、時々ゲストとして他施設の方も参加しています。毎月発行している広報紙で2か月分の出来事なども報告しています。	単に、GH絆の運営と言う立場ではなく、地域に密着した一家庭との視点からの運営推進会議とし、地域全体のかかわりの中で、絆のあり方を考えていただく。家族は特定ではなく、全家族に案内し、都合の良い方が参加している。会議内容は建設的で運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	依頼文書、提出書類などは出来るだけ、直接市担当者まで届けに行き、顔の見える関係づくりに努めています。	可能な限り、市の担当者と接し、事務的な面でのアドバイスを受ける様に努めながら連携を密にすることとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃の取り組みの中で、安心して暮らしている中で、の施錠はありません。	外部及び内部の職員研修によって、「身体拘束をしないことが絶対的にケアにあたって大切であること」を共有することに努めており、防犯上夜間の施錠はするが、日中はしない。利用者一人ひとりについても身体的のみならず、精神的にも拘束しないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	援助の方針として丁寧な言葉づかいに努めてまいりました。毎月のケース会議においても虐待にいたるケースも確認されたこともなく、しない・させない処遇に努めております。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム絆

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これまでも、入居者本人の財産管理についての相談等もあり、管理者や計画作成者がその対応にあたり、その報告は守秘義務以外の部分で会議にて報告されています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約に関しては、管理者及び計画作成者が利用者・ご家族に説明し、理解の上サインをいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の面会時や、推進会議において話しをし、ケアプランの説明などの際に意見を聞くように努めています。	運営推進会議には全家族に案内し、都合のつく家族には出席頂き、意見をうかがっている。また、月一回の経費納入に訪した折などにも聞いている。その意見・意向には沿うように努めている。ただ、運営に関するものは現在はない。また、月一回の発行の絆ニュースペーパーは、全紙面写真と端的なコメントで埋められ利用者の様子が克明に分かるユニークな家族向け広報で、115号を数える。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケア会議後には代表者も出席して、職員と意見交換をしています。また年に数回懇親会も開催し、親睦を深めています。	月一回のケア会議や、日常いつでも聞く様になっているが、運営に関しては、最近は何も出てはいないが、ある場合は、検討・反映するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社代表には、公的機関の主催する研修会にも出席いただき理解をいただいています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在2名の職員が働きながら、資格の取得にむけて取り組んでいます。1名はすでにヘルパー2級を取得しました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会主催の研修等には、内容によって参加をしています。また今年度交換研修に2名の職員を出し、3名の他施設職員を受け入れました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規の入居された方には、不安を感じさせないように、職員が話相手になったり、入居者さんに紹介してサポートしながら打ち解けるよう工夫をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の想いを十分に受け止め、これまでの経緯や、今後の希望にそうよう、本人も含め援助に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に至る経緯などを分析して、本人とご家族に「安心をいただくよう、蜜な連絡に努めています。本人の寂しさ、家族の不安はしだいに見せる笑顔が薄めていき、やがてなくなると考えます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の中には、なにか役割とか、手伝いをとか思いがある方もおります、それぞれにあったこと、例えば柿をいただく皮をむき紐で吊り、干し柿作りを手伝っていただきます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年1回の誕生日、母の日・父の日・敬老の日にはお花が届いたり、なにかしら記念日を大切にされるご家族の心に、私たち職員もお手伝いします、それらは、毎月の広報紙にて掲載報告します。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域で暮らした二人の入居者さんには、散歩や地域行事の際に声を掛けていただいたりしています。今年の夏まつりにもたづねてくる方もいました。	地域の方々にはいつも利用者に心配りをいただいている。せせらぎ通りの散歩には心がけをいただく。ツルハドラッグやローソンに出かけたり、馴染みの理・美容師さんや医療・機能訓練のマッサージ師さんの来訪をお願いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	現在談話をされる二組や、他の方のお世話をされる方、また普段は自室で過ごされる入居者さんには朝の体操で掛け声のリードをしていただくなど、適度な距離感が必要な方にも配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談に応じておりますし、職員も外で買い物で偶然会って、懐かしいお話しなどを伺った等、報告をいただいております。入院退去された方へは見舞いで様子を伺うこともしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	大体が本人も希望されて現在の部屋に入居されました、したいこと、過ごし方など本人からお話しを伺いながら対応しております。個人的な買い物にもお付き合いいたしております。	本人から直接聞くことが主体で、更に日常の利用者の言動から職員が把握したことなど送りノートに、記入して、それを全職員が見て閲覧印を押して、利用者の思いや意向を共有しケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会の際の、ご家族との会話の中で情報をいただきケア会議のなかで把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの観察記録をとり、ケアプランに反映させています。日常では毎朝の引き継ぎ時に情報の共有をはかり一日の過ごし方の留意点を確認しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時モニタリングは行い、全員3か月に1度ケア会議の中で情報を出しあい、以後のプランに反映しています。他にも必要であれば変更もふくめ引き継ぎノートによってチームとして確認して取り組んでいます。	ケース会議で出た事柄をアセスメントし、全職員で相談し、原案を作成、家族の意見を聞き、介護計画が出来る。それにより、実践モニタリングを全職員でやっていく。そして原則3ヶ月ごとに見直しをしている。絆では利用者担当制はとっていない。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は様子記録によって確認し、詳しい内容は個々のファイルの記録に記入されています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のため、家族にお願い出来ることは協力していただきますが、事業所でできることは知恵を出し合い支援の多機能化に努めています。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム絆

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	最近近所にドラッグストアができ、買い物が出掛けている、また以前よりあったコンビニや、大型スポーツ店なども散歩の途中立ち寄ることもあります。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	最近入居した方は、ずっと馴染みの主治医に受診されています、他の方は近所の主治医にかかり互いに冗談がでるなど、気軽な診療が来ています。	ほとんどの利用者は、自ら、絆の協力医と歯医者をかかりつけ医としており、受診は職員同行で受けたり、往診をお願いすることもある。最近、入居した利用者は、以前からのかかりつけ医に家族同伴の受診をしている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は月2回訪問看護師が来られて、体調不良の入居者はもちろんのこと、元気な方にも気軽に声を掛けられる関係になり、頼られています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	総合病院などは、緊急搬送の際に入院等でお世話になりますが、常備として既往歴や薬、入院歴などの情報が記載された用紙を持ち出しています。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の場合、ご家族に現状報告をまめに行い、以後の対応についても、出来るだけ希望に添うよう援助しています。	絆の看取り指針により、入居時に家族の同意書を得て、利用者の状況の変化に応じ、更に家族との話し合いを進めながら意向があれば、最後まで看取することで職員は共有している。昨年の外部評価での課題については会議で協力医からのアドバイスもあり、出来るだけ多くの家族の意向を窺うことにしたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時には、管理者、そして指示により主治医に連絡し、対応していただいています。救急救命の講習も毎年実施しております。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、災害等を想定した訓練、事故を想定した研修など地域・消防署と連携して実施しております。	絆としての防災計画を持っている。また、町内会の中での防災計画にも位置づけられ、災害発生時には近隣の方々が、駆けつけてくれるようになっており、地域との協力体制が確立している。最近の地震(12月17日)の折も、様子を見に来てくれた。年2回の訓練を実施している。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者への言葉かけには、細心の注意を払い、本人のプライドを傷つけないよう行っています。	利用者への言葉遣いに、日常的に注意している。人生の先輩として敬意を表わすように心がけることが、利用者を傷つけない言葉に通ずるものである。また、一人の職員の「利用者一人ひとりの個性を見極めること」は印象的な言葉であった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中、特にお茶を飲みながらの談話の中でさりげなく希望を聞いたりしています。誕生日メニューなども。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者本人のペースに合わせ、支援しています。朝のお茶のみなどに、天候をみて外出などの希望を聞いたりしています、バルコニーでの日光浴も人気です。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の選択が出来る方には、自由に、多少援助が必要な方にはアドバイスをします。化粧や髪染めなど、理髪も含め理容師さんに来設していただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは職員が作成しています、入居者の好みなどは、誕生日の時などは特に配慮しています。目の前で調理しているので匂いなど、楽しみにされています。	利用者の誕生日に合わせて好みのものを中心にメニューを考えると、利用者の意向に沿い、職員が献立をたて、キッチンと居間は仕切りなして開放的で調理の様子が窺える。絆からは個人用のご飯茶わん、はしをプレゼントしている。職員も共に、食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3度の食事と2度のお茶の時には3種類のお茶、コーヒー、紅茶など変化をつけてお出ししています。お魚野菜などはバランスよく1週間のメニューに配置されています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者個々に義歯や、残歯があり、毎食ごとに清潔保持に援助しています、市より表彰された方もおります。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム絆

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	訴えない方もおりますが、排泄のパターンの把握で、清潔保持に努めています。自力排泄の方には個々にあった援助をしています。	現在の利用者は、自立・一部介助・全介助の順での割合での支援状況となっている。自立の方向に改善されている状況はない様子である。チェック表などによる誘導支援等は基本的に取っていない。むしろ、本人の状況に合わせ、ポータブルトイレや、パットを準備し、本人の動きによって支援するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の情報は小まめに共有して、期間が長い時は水分の摂取や、薬剤なども使用し、本人の苦痛を解放するよう援助しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日3人で2日おきに入浴できるよう援助しています。ただ個々の体調も加味して希望なども考慮した援助をしています。	入浴は13時30分から16時30分の時間帯で、一回3名が入っている。入浴するのはお一人ずつで、本人の希望で職員は、支援や見守りなど、安全に配慮しつつ、柔軟に対応をしている。入浴を拒む利用者もあるが、無理強いせず、気持ちをほぐす方向に持って行くようし、入浴する方向にむけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前夜の引き継ぎ、朝のバイタル時に表情を把握して休憩をとるよう促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個々に合わせた服薬援助をしています。状態に合わせた薬品の調整は主治医と相談の上行なっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のメリハリのある生活、特に歌を大切に考えています。また水戸黄門は楽しみの一つです。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	入居者にとっての関心事の一つに天気もあります。ただし今年の夏は暑すぎて大変でしたが、秋は散歩日和が多く楽しめました。散歩道の花々は楽しみの一つ。	好天の日には、近くのせせらぎ通りでの散歩がある。ここでは近隣の人たちの挨拶交流もある。遠くは津志田ユニバース、八幡祭典の山車見学、仙北地区町内運動会などへ出かけている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム絆

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の安定のため、個人の財布を持たれている方もありますが、盗難などの思い込でのトラブルが発生しており、預かるほうが多いです。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話はいつでも使えるようにしています。手紙なども支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の装飾にも季節感を取り込んだりしています。普通の居間の雰囲気があり、入居者はくつろいでいます。	自由時間の利用者が座る位置などは、その時の状況を見て、トラブルが無いように、さりげなく対応している。掲示物など季節に合わせて考えている。最近ではクリスマス関係のものの掲示になっている。利用者の心を和ませることを留意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置、バルコニーのベンチなど相性も含めて考慮されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の私物の持ち込みは原則自由となっています。	民家改造型のため、各居室のスペースが画一的でないところに良さを感じる。板敷きの間あり、たたみの間あり、そこを利用者一人ひとりが思い思いの居宅づくりをしている。それぞれの居室が個性的に見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守り重視の援助が来ています。		